

*Aomori University of
Health and Welfare, Graduate School of
Health Sciences*



青森県立保健大学大学院

健康科学研究科／健康科学専攻

(博士前期課程・博士後期課程)

2027年度
入学案内

理 念

公立大学法人青森県立保健大学は、青森県の保健、医療及び福祉に係る諸課題の解決に向けて、「いのち」を育てきた創造性と四季豊かな自然に恵まれた地域特性を生かした教育研究活動を進め、ヒューマンケアを実践できる人間性豊かな人材を育成するとともに、青森県立保健大学を地域に開かれた大学として地域社会、ひいては国際社会の発展に貢献する。

地域の“健康と福祉”の未来を担う研究者や高度専門職業人をめざして



青森県立保健大学
学長

吉池 信男

「青森で学ぶ」ということ

みなさんは、「青森」と聞いて、どのようなイメージをお持ちでしょうか。青森に対するこれまでの接点や経験によって、受け取り方はさまざまだと思いますが、「短命県」というイメージだけでは、悲しすぎるのではないのでしょうか。

保健・医療・福祉など、専門性を高めたいと考える皆さんにとって、青森で学ぶことには大きな意味があります。県内にとどまらず県外、そして海外を問わず、それぞれの視点を持つ人々が関わり合う中で、日本の「ローカルな最先端」といえる地域に触れ、学びを深められる環境がここにはあります。

私たちの大学院では、多様な専門性やバックグラウンドを持つ学生たちが、地域を越えて集い、開かれた環境のもとで、互いに刺激を受けながら学び合える場を提供しています。新しい世界を見つけ、自らの可能性を大きく広げる— その第一歩を、ここから踏み出してみませんか。

地域の未来をともに創る健康科学研究科へようこそ

本大学院健康科学研究科は、国際的な視野と地域社会への深い洞察を併せ持ち、「いのち」を支え育む理念のもと、次代のヘルスケアを牽引して社会全体の発展に寄与できる高度専門職業人の養成に尽力しています。カリキュラムは、保健・医療・福祉領域の最新知見や高度な技術を体系的に修得できるよう設計されています。多様なライフスタイルに配慮し、オンラインや週末・夜間開講など社会人が研鑽を積みやすい柔軟な学習環境を実現しています。さらに個々のビジョンに基づいた履修支援体制も整えています。青森の豊かな自然環境のもと、既存の専門領域の枠組みを超え、一人ひとりが独自の課題意識を持ちながら多職種と連携し、学際的なアプローチで研究を深めてまいります。これらの活動を通じて、新たな価値の創造と活力ある地域、持続可能な社会の構築に挑む、高い志を持つ皆さんの入学を心よりお待ちしております。私たちと共に知を磨き、次代の健康科学を切り拓いていきましょう。



青森県立保健大学大学院
健康科学研究科長

篠原 博



アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

博士前期課程

本学の理念を実現・実践し、研究能力及び高度な専門知識・技能を身につけ、社会で活躍できる人材を育成するため、以下のような学生を求めています。

- 1 健康科学に関して問題意識をもち、その深い理解と真理の探究に意欲をもつ人
- 2 保健、医療及び福祉の諸課題を科学的・理論的に研究するための基礎的な能力をもつ人
- 3 保健、医療及び福祉分野のリーダーや教育者として、社会に貢献しようとする意欲をもつ人

アドミッション・ポリシーに掲げる高い能力と資質を備え、かつ多様な学生を選抜するために、学内推薦選抜、一般選抜、外国人留学生選抜及びCNSコース選抜を実施します。入学者選抜試験では、総合的学力及び意欲、探究心等を多面的かつ総合的に評価するために、学内推薦選抜では面接試験を、その他の選抜では筆記試験及び面接試験を実施します。

博士後期課程

本学の理念を実現・実践し、高度な研究能力を身につけ、研究・教育機関や関連する専門機関等で活躍できる人材を育成するため、以下のような学生を求めています。

- 1 健康科学に関して問題意識をもち、その深い理解と真理の探究に意欲をもつ人
- 2 保健、医療及び福祉の諸課題に対して、自ら研究課題を設定し、研究成果をまとめ、発表するための基盤となる能力をもつ人
- 3 保健、医療及び福祉分野における研究者、教育者並びにリーダーや管理者等として、社会に貢献しようとする意欲をもつ人

アドミッション・ポリシーに掲げる高い能力と資質を備え、かつ国内外を問わず多様な学生を選抜するために、オンラインによる入学者選抜試験を実施します。入学者選抜試験では、総合的学力及び意欲、探究心等を多面的かつ総合的に評価するために、筆記試験及び口述試験を実施します。

多職種連携や学際的研究を推進するための3つの研究領域

博士前期課程

【修業年限：2年】
(3年の長期履修制度も利用できます。)

保健医療福祉の連携を図る教育・研究を推進し、専門的な学術理論と応用を教授・研究することにより、豊かな学識と高度な専門的能力を備えた人材を育成し、学術と地域社会の発展に寄与することを目標としています。

領域・コース

- 保健・医療・福祉政策システム領域
- 対人ケアマネジメント領域
- 基礎研究・実用技術領域
- CNS（専門看護師）コース

取得可能な学位

- 修士(健康科学)
- 修士(社会福祉学)
- 修士(看護学)
- 修士(公衆衛生学)

博士後期課程

【修業年限：3年】

博士前期課程で獲得した能力を基礎に、保健医療福祉の連携による包括的サービスの提供を担う、高度な学問的見識及び研究開発能力並びに豊かな人間性を備え、地域の教育研究機関等の中核となる高度な研究者を育成することを目指す。

領域

- 保健・医療・福祉政策システム領域
- 対人ケアマネジメント領域
- 基礎研究・実用技術領域

取得可能な学位

- 博士(健康科学)

●カリキュラムの特徴

本研究科のカリキュラムは、保健医療福祉に関わる高度な知識、問題解決及び研究能力を修得することを目的として、基盤科目、専門科目、特別研究の3層から構成されます。

基盤科目

＜研究基礎科目群＞では、研究の基礎となる多様な研究方法や倫理、専門領域の研究に関わる基礎的な科目を設定しています。さらに、健康科学などの実践や学問体系の基盤となる科目として、＜生命科学・生理学科目群＞、＜疫学・統計学科目群＞を設け、加えて、地域の人々の健康的な行動変容を促すための基盤となる＜ヘルスリテラシー科目群＞も設置しています。これらの科目は、主に1年次に履修し、専門科目の学修や特別研究の計画・実施の土台となります。

専門科目

地域保健、社会福祉、看護、理学療法、栄養などを専門とする学生が、専門性をさらに高め、分野や職種を越えた実践・研究を推進できるよう、＜保健・医療・福祉政策、マネジメント科目群＞、＜看護学科目群＞、＜社会福祉学科目群＞、＜理学療法学科目群＞、＜栄養・食品学科目群＞を設けています。

修士（看護学）、修士（社会福祉学）、修士（公衆衛生学）の各学位では、それぞれに対応する科目群等から所定の単位を修得する必要がありますが、基本的には自身の学修目標に応じて、自由に科目を選択できるようになっています。

特別研究

基盤科目・専門科目で培った知識や視点をもとに、自ら設定した研究課題に取り組み、修士論文を作成・発表する科目です。すべての学位において8単位の必修となっています。

ただし、修士（社会福祉学）実践課題コースおよびCNSコースにおいては、特別研究の代わりに2単位の「課題研究」が必修となります。

本研究では、特定の職種の枠を越えた課題意識・着想・方法・実施が求められるため、実践や研究の対象や場の多様性を踏まえ、3つの横断的な研究領域を設定しています。

- ・保健・医療・福祉政策システム領域
- ・対人ケアマネジメント領域
- ・基礎研究・実用技術領域

● 前期課程における修了までの標準的なプロセス (例)

1年次	前期(4月～9月)	講義・演習 (基盤科目・専門科目)	特別研究		
	履修登録 科目受講の開始 研究課題の検討 修士研究論文のテーマ決定 調査や実験等の開始				
	後期(10月～3月)				
	研究計画書の作成・提出 研究計画書の審査 倫理審査				
2年次	前期(4月～9月)				
	中間発表会での報告 修士論文の作成				
	後期(10月～3月)				
	修士論文の提出・学位申請(1月) 口頭試験・公開審査会(2月) 公開審査会(2月) 学位授与判定(3月) 学位授与(3月)				
修了(修士学位取得)					

在校生MESSAGE



グエンティトウさん
対人ケアマネジメント領域
看護基礎科学研究室
2025年度入学

以前勤務していた病院で、訪問看護について知る機会がありました。ベトナムではこの制度がまだ医療システムの中で正式に広く導入されておらず、関連する知識や研究も不十分です。そのため、訪問看護についてより深く研究したいと考え、進学を志すようになりました。ベトナム人の先輩から本学を紹介され、教育内容や研究環境について調べた上で、進学を決意しました。

入学後は、指導教員の先生や事務職員の皆様から、言語面・学習面・生活面に至るまで多くのご支援をいただき、心より感謝しております。

現在は「ベトナムと日本における在宅ケア政策の比較」をテーマに研究を進めており、本研究が、ベトナムのみならず、医療政策や在宅ケア体制の整備を進めている他国にとっても、有意義な示唆を提供できることを願っております。

修了生MESSAGE



畑井 亮平さん
対人ケアマネジメント領域
精神看護学研究室
2025年度修了

博士前期課程では、看護学および研究方法論に関する専門知識の深化に加え、研究課題の設定力や論理的思考力、研究を自律的に遂行する力を養いました。計画立案からデータ収集、分析に至る一連の研究過程を体系的に経験できたことは大きな財産となりました。

現在は大学教員として、これらの経験を教育・研究指導に活かし、学生の主体的な学びと探究心を引き出すことに努めています。本学大学院での学びは、教育者としての成長にも直結していると実感しています。

研究室紹介(基礎研究・実用技術対領域/認知運動神経科学研究室)

基礎研究・実用技術対領域 教授 渡邊 龍憲

当研究室では、脳波計や経頭蓋磁気刺激装置などの神経生理学的手法を用い、ヒトが複雑な運動を行う際の脳内メカニズムを探索しています。特に、運動の調整や技能獲得(学習)を支える脳活動パターンの解明に取り組み、その知見を高齢者の身体機能維持や脳卒中等の神経疾患に対するリハビリテーションへ応用することを目指しています。さらに、脳の働きを調整する刺激技術(非侵襲的脳刺激法)を用いて、運動・認知・精神機能の改善を図る研究も推進しています。現在は県内外から集まった意欲ある社会人学生7名が在籍し、臨床現場での視点を大切にしながら互いに研鑽を積んでいます。また、国内外の学術集会や国際学術誌での成果発表にも積極的に取り組み、グローバルな視野を養うとともに、研究成果の社会還元を図っています。



● ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大学院健康科学研究科博士前期課程では、本学の「ヒューマンケアを実践できる人間性豊かな人材を育成する」という理念のもと、所定の教育課程において修了要件となる単位数を修得するとともに、特別研究又は課題研究の成果として提出された学位論文の審査及び最終試験に合格し、コースワークやリサーチワークを通して、次の知識・能力を身につけた者に修士の学位を授与します。

1. 全学位プログラム共通

- (1)学際的な学びと多様な価値観の理解を通じて、保健、医療及び福祉分野の研究・実践に必要な知識、倫理観を身につける。
- (2)保健、医療及び福祉分野における問題や課題を科学的・論理的に考察し、専門的な研究・実践に活用できる。また、得られた成果を国内外に発信できる。

2. 学位プログラム別

修士（健康科学）

健康科学に関する学際的な知識に基づき、実験的手法や調査を通じて得た知見を体系化し、分析する能力を習得する。さらに、保健、医療及び福祉分野において直面する課題の解決や、科学的根拠に基づく実践に寄与する能力を身につける。

修士（看護学）

保健、医療及び福祉分野における看護実践の事象や課題について、知識を体系化して理論と関連づけながら分析し、質の高い看護実践能力を身につける。
「CNSコース」では上記に加え、次の知識・能力を身につけることを求めます。

- (1)専門領域に精通した臨床判断に基づき、ケアとキュアを統合した高度な看護実践能力を身につける。
- (2)リーダーシップを発揮して多職種や組織と連携・協働し、専門領域の看護実践の変革を推進する能力を身につける。

修士（社会福祉学）

生活者や地域社会が抱える多様なニーズを、ミクロ・メゾ・マクロの各視点から客観的かつ体系的に捉える能力を身につける。さらに、ソーシャルワークおよび社会福祉政策を理論的・実践的に探究し、保健・医療・司法・教育・行政など多分野と連携しながら社会的課題に取り組むスキルを習得する。

修士（公衆衛生学）

公衆衛生におけるシステムの構造や構築プロセス、その現状と課題を包括的に理解する力を身につける。また、地域社会や国際的な健康課題の解決に貢献できるよう、科学的根拠に基づく実践や政策を検討し、創造的な企画を立案・提言する能力を培う。

学位プログラム代表からのMESSAGE



修士（看護学）学位プログラム代表
教授 福井 幸子（看護実践研究室）

修士（看護学）学位プログラムで修学し、新たな自分との出会いを！

本プログラムの受講生は志望目的が明確な方が多く、ゼミや講義では、臨床能力を高めたい、研究能力を身につけたい、看護を学び直したい、という熱い思いが飛び交い、それが刺激になって相乗効果をもたらしています。修学の目的は人それぞれですが、院生間でのディスカッションや、実務から得られた疑問・好奇心を研究に繋げることで、自身の可能性を拡げることができます。

本プログラムには、基礎理論や技術の他、地域や在宅、看護管理、感染制御、そして生涯発達にみられる健康課題などの研究テーマを指導する教員が14名います。興味関心がありましたら、まずは指導教員に気軽に声をかけてください。新たな自分と出会える最初の一步がそこにあると思います。

学位プログラム代表からのMESSAGE



修士（社会福祉学）学位プログラム代表
教授 工藤 英明（介護保険政策・高齢者ケアシステム研究室）

ソーシャルワーク実践の科学化と社会福祉学の探究

本プログラムでは、根拠を持ったソーシャルワーク実践や社会福祉分野のリーダーとなるべき人材に求められる探究力、社会への発信に必要な言語化スキル、ソーシャルワークの実践スキル等の習得を目指しています。

本プログラムには、研究コースと実践課題コースの2つのコースがあります。学生個々のキャリア形成により選択でき、いずれのコースも根拠を持ったソーシャルワーク実践や生活課題解決のための研究的視点を養うことを主眼とし、各種方法論を学びます。また、各研究室の研究テーマは、社会福祉専門領域を配し、学生の興味関心のある領域で、研究及びより深い専門的知見を得られる体制となっています。

2026年度シラバスについてはこちらを参照してください
<https://www.auhw.ac.jp/daigakuin/syllabus/index.html>



修士論文・課題研究論文抄録集はこちらからご覧いただけます
<https://www.auhw.ac.jp/daigakuin/m-ronbunsyouroku/2022-0130-1347-112.html>



● 修士(公衆衛生学)学位プログラム(MPHプログラム)の紹介

青森県健康を丸ごと探求し、 世界に還元する人材を育成する



MPHプログラムでの多様性のある学び

修士(公衆衛生学)学位プログラム代表
特任教授 大西 基喜(公衆衛生研究室)

当プログラムは2023年度に開設されました。東北では2校目の設置となり、反響も大きく、2023年度から2026年度にかけて、計29名の方が入学されました。主な目的は、地域の公衆衛生活動の中核を担う人材育成を図る、というのですが、その射程はさらに幅広いものです。

このプログラムを通じて、保健・医療・福祉の専門職の方々が視野をさらに広げるとともに、公衆衛生に関心を持つ方々がその視座や知識を修得し、将来に向けたさまざまな可能性へと繋げていくことができるものと考えております。その意味で、本プログラムは専門分野を問わず、多様な職種や背景を持つ方々に広く門戸を開いています。

また、「青森」という特徴ある地域性を実践的なモデルとして、学習や研究を進めていくことで、青森県はもとより、日本、そして世界において実務・教育・研究上の諸課題に取り組める人材が、継続的に育つことを目指しています。

さまざまな職種の方々の入学、また、大学生の皆さんの進学をお待ちしています。

● 公衆衛生学とは

公衆衛生学は人々の健康を守り促進することを図る科学であり、また実践的な技術です。公衆衛生学の対象は医療・保健・福祉領域のほぼすべてにわたりますが、臨床医学が個々人の健康/疾病を対象としているのに対し、公衆衛生学は基本的に人の集団を対象としている点が特徴的です。

公衆衛生上の課題は、地域の健康・ケアから地球規模の環境問題や感染症パンデミックまで極めて広範にわたっており、現在こうした課題は次第に重要性を増しています。従って、それらの課題解決は地域にとっても、地球規模でも必須となっており、広い視点を持って取り組める公衆衛生の人材を育成することが急務となっています。



修了生 MESSAGE



平野 貴大さん
保健・医療・
福祉政策システム領域
公衆衛生研究室
2025年度修了

総合診療医として青森県のへき地診療に取り組みながら、オンライン診療の適応患者割合を診療行為ベースで定量的に評価する研究を行いました。大学院では、公衆衛生の第一線で活躍される先生方と講義やディスカッションを通じて学びを深めるとともに、日々の臨床で感じていた「日常診療の何割がオンラインでも診察可能か」という臨床的直感を、研究として表現する力を体系的に身につけることができました。オンライン環境で学べるため、へき地にいながら学習・研究を両立できたことも大きな魅力と感じました。大学院で学んだことを活かし、現場で抱いた疑問を、研究を通じて明らかにし、地域医療に貢献していきたいと思っています。

● CNS（専門看護師）コースの紹介

ケアの深化と連携の力で、地域医療の未来をともに創る

2026年4月、新たに2つの専攻分野を開設！

新設：感染症看護専門看護師（感染看護学専攻）／老人看護専門看護師（老年看護学専攻）

既存：がん看護専門看護師（がん看護学専攻）



実践と連携の力を育むCNSコースの学び

CNS（専門看護師）コース長

教授 鳴井 ひろみ（がん看護学研究室）

.....

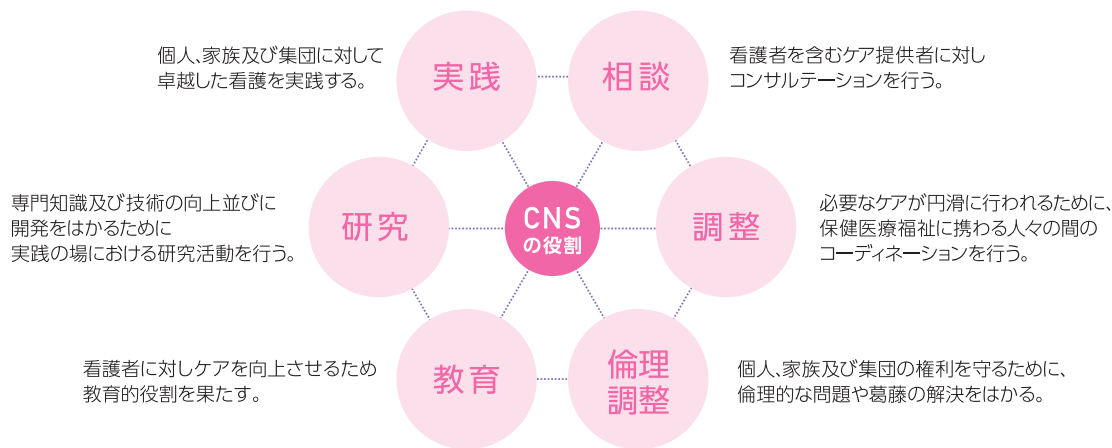
本学大学院では、2016年度に「がん看護専門看護師コース」を開設し、これまで着実に専門職としての力を育んできました。2026年度からは、「感染看護学」「老年看護学」の2つの専攻分野を新設し、地域の看護課題に応えるCNS育成をさらに推進していきます。

高齢化の進行や新興感染症の脅威、がん医療の進展など、医療現場の課題は年々複雑化しています。これらの分野において、専門性と実践力、そして多職種・多機関連携をリードする力を備えた専門看護師の育成が強く求められています。

本学のCNSコースでは、臨床経験を活かしながら、高度な判断力・実践力・研究力を体系的に修得できます。地域医療の未来をともに創る人材として、現場で働く皆様のチャレンジを心よりお待ちしております。

● CNS（専門看護師）とは

専門看護師(Certified Nurse Specialist:CNS)とは、特定の専門看護分野において高度な知識と技術を備え、複雑で解決困難な看護問題を抱える個人、家族、集団に対して質の高い看護ケアを効率的に提供する看護師のことをいいます。専門看護師になるためには、日本看護協会の専門看護師認定審査に合格し、特定分野における卓越した看護実践能力が認められる必要があり、次の役割を果たします。



修了生 MESSAGE



渡辺 里子さん

対人ケアマネジメント領域/
CNSコース
がん看護学研究室
2025年度修了

大学院では、これまでの看護を振り返るなかで、自分には見えていなかった視点や考え方に気づくことができました。また、苦い経験として心に残っていた出来事も捉え直すことができ、看護師として前向きに歩いていく力につながったように思います。課題研究では、外来がん薬物療法を継続する過疎地域の患者を対象にインタビューを行い、実際に話を聞かなければわからない思いや体験があることを改めて実感しました。

今後は大学院での学びを活かし、広い視野で状況を捉え、患者や家族とともに考え、寄り添い続けていきたいと思っています。

博士後期課程

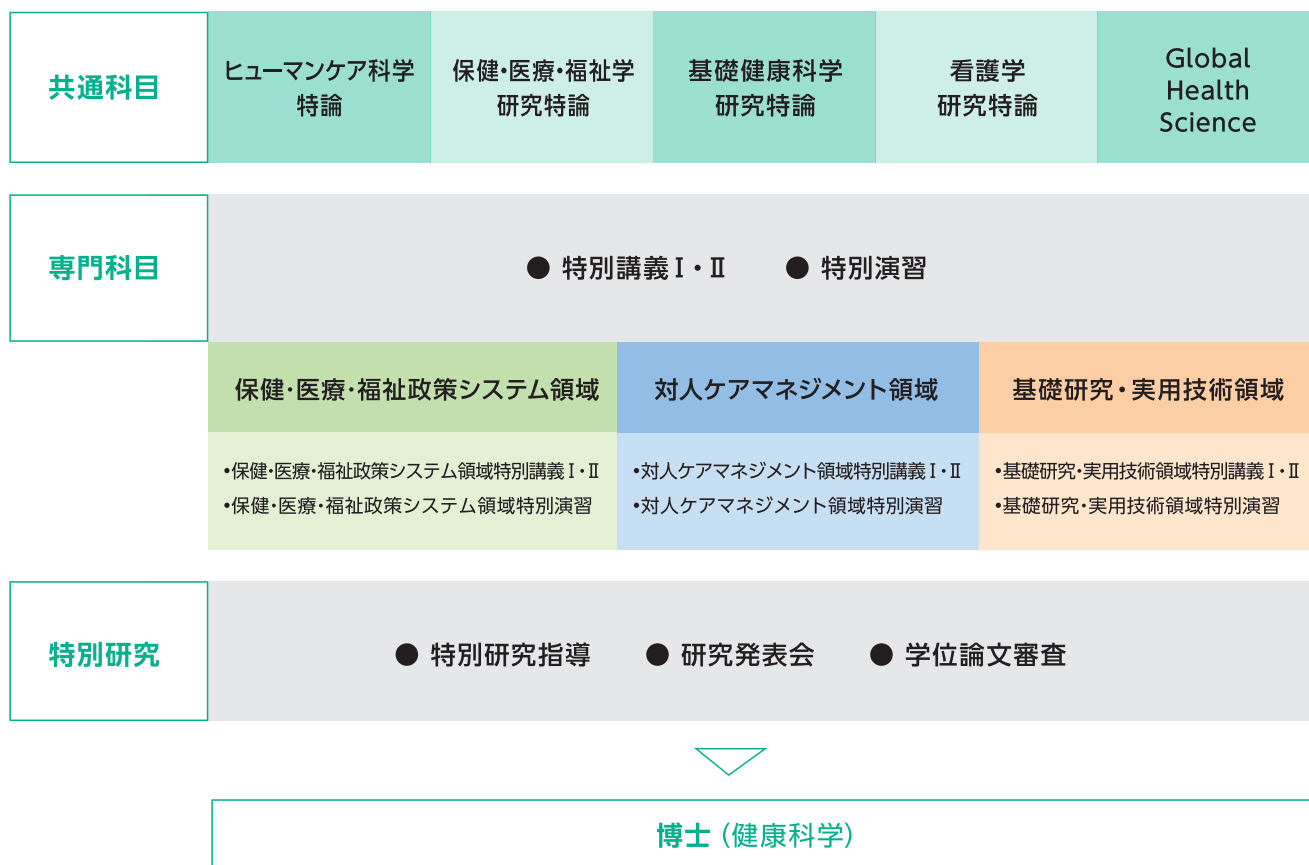
● 入学者選抜試験

博士後期課程の入学者選抜試験は、オンラインで実施します。

● カリキュラムマップ

保健医療福祉に関わる高度な研究能力を身につけ、社会に還元しうる研究成果を発信することを目的として、共通科目、専門科目、特別研究の3層からカリキュラムが構成されます。

入学者は事前に相談し指導教員を決定し、指導教員の属する研究領域に所属します。



● ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大学院健康科学研究科博士後期課程では、本学の「ヒューマンケアを実践できる人間性豊かな人材を育成する」という理念のもと、青森県立保健大学大学院学則に定められた教育課程の修了単位を修得し、特別研究の成果として提出された博士論文の最終審査に合格し、次に掲げる知識・能力を身につけた者に博士（健康科学）の学位を授与します。

- (1) 学際的・総合的な視点から高度な専門知識を統合し、新たな価値の創造につながる研究課題を見出すことができる。
- (2) 倫理観と責任感を持って、保健、医療及び福祉の諸課題の解決につながる研究や実践を主体的に遂行し、学術論文等としてその成果を社会に発信できる。

2026年度のシラバスはこちらからご覧いただけます
<https://www.auhw.ac.jp/daigakuin/syllabus/kouki.html>



博士論文要旨はこちらからご覧いただけます
https://auhw.repo.nii.ac.jp/search?search_type=2&q=131



● 後期課程における修了までの標準的なプロセス (例)

1 年次	履修登録 科目受講の開始 研究課題の検討 博士研究論文のテーマ決定 調査や実験等の開始	講義・演習（共通科目・専門科目） <
------	---	---

在校生 MESSAGE



高橋 碧希さん
基礎研究・実用技術領域
認知運動神経科学研究室

私は、臨床や研究を通して生じた疑問や知的好奇心を、個人の学びの範疇に留めるのではなく、社会へ還元できる形に発展させる力を養いたいと考えています。そのため、博士前期課程で修得した研究の基本的手法に加え、より高度な研究遂行能力を培う必要があると感じ、博士後期課程への進学を決断しました。

現在は、博士前期課程で取り組んだ研究成果を学術論文としてまとめるとともに、ヒトの巧緻動作の獲得に重要と考えられる、感覚情報と運動情報を統合する「感覚運動統合」の役割について、脳波などの神経生理学的指標を用いた研究に取り組んでいます。

修了生 MESSAGE



梅崎 泰佑さん
対人ケアマネジメント領域
スポーツ
リハビリテーション学研究室
2025年度修了

博士研究では、地方大学アメリカンフットボール選手を対象とした傷害調査と予防策の検討を行いました。客観的な傷害データに加え、選手たちの主観的な声の双方から現場のリアルをどう捉えるか試行錯誤した経験が、「現場でつかえてこそ」という今の私の軸になっています。

現在は新たなフィールドで、研究成果を即座に現場へ還元できる仕組みづくりを模索しています。

研究のプロセスは、現場の課題を紐解き、解決の糸口を探る大きな助けになります。研究を現場や学生教育に還元し続け、より安全な競技環境づくりに貢献していきます。

研究室紹介（保健・医療・福祉政策システム領域/地域保健研究室）

保健・医療・福祉政策システム領域
教授 古川 照美

本研究室では、地域における生活習慣病予防対策に関する研究や地域の子育て環境と施策に関する研究、地域の包括ケアシステムに関する研究など、地域の課題解決に関する研究テーマを扱っています。行政や学校、事業所などから協力を得て調査研究を行い、研究成果は地域へ還元できるよう取り組んでいます。

県内在住の院生は主に対面で、県外在住の院生はオンラインで授業やゼミに参加しています。同職種を背景に持つ院生同士が交流し、学びを深める機会として、博士前期課程・後期課程合同のゼミを実施しています。ここでは、毎回活発な意見交換が行われ、研究方法や論文執筆などへの示唆が得られる場となっています。



各研究領域の指導教員

各研究領域の指導教員		博士前期					博士後期
		健康科学	看護学	社会福祉学	公衆衛生学	CNS	健康科学
保健・医療・福祉政策システム領域 Health/Medical/Welfare Policy System Domain							
公衆衛生研究室 Public Health							
特任教授 大西 基喜	・地域診断に関する研究 ・医療倫理に関する研究 ・ヘルスコミュニケーションに関する研究		○			○	○
精神保健福祉研究室 Mental Health and Psychiatric Rehabilitation							
教授 大山 博史	・家庭・学校・職場・地域におけるメンタルヘルス課題に関する実証的研究		○		○		○
教授 坂下 智恵	・メンタルヘルスに係る精神保健福祉活動および精神障害者の地域生活支援に関する研究		○		○		○
地域福祉実践研究室 Community Practice							
准教授 小山 宰	・認知症の当事者参加に関する研究 ・当事者参加、市民参加を支えるソーシャルワークに関する研究		○		○		
生活保障研究室 Social Security							
准教授 権 順浩	・最低生活保障に関する研究		○		○		
介護保険政策・高齢者ケアシステム研究室 Long-Term Care Insurance Policy/Elderly Care System							
教授 工藤 英明	・認知症による要介護認定と社会的側面の影響に関する縦断的研究 ・認知症高齢者への意思決定支援に関する研究		○		○		
教授 児玉 寛子	・家族介護者支援に関する研究		○		○		○
地域保健研究室 Community Health							
教授 古川 照美	・地域における生活習慣病予防対策に関する研究 ・地域の子育て環境と施策に関する研究 ・地域の包括ケアシステムに関する研究		○	○		○	○
生活機能障害リハビリテーション学研究室 Health Promotion and Rehabilitation							
教授 齋藤 圭介	・地域高齢者における障害（生活機能低下）予防に関する研究 ・認知症高齢者のリハビリテーションケアに関する研究（自立支援・転倒予防） ・入院リハビリテーションにおける自立支援と効果判定指標開発に関する研究		○				○
高齢者健康支援研究室 Elderly Health Support							
教授 相馬 正之	・地域在住高齢者における易転倒指標に関する研究 ・高齢者の運動行動変容に関する研究 ・高齢者における車椅子上姿勢保持に関する研究		○				○
障害福祉政策研究室 Disability Welfare Policy							
教授 高阪 倅雄	・障害基礎年金制度と当事者運動についての研究 ・重度訪問介護制度の成立プロセスと自立生活運動についての研究 ・福祉政策における分配理論と当事者運動の関係についての研究		○		○		
国際母子保健学研究室 Global MNCH (Maternal, Newborn and Child Health)							
教授 高橋 謙造	・国内外の母子保健課題（予防接種、低中所得国の乳児死亡改善、母乳育児、障害児療育、外国人診療支援等）に関する研究		○			○	○
保健社会研究室 Health Sociology							
教授 瀧澤 透	・公的統計を用いた実態把握と予防に関する研究 ・医療提供体制と医療ソーシャルワーカーに関する研究		○		○	○	○
障害者支援システム研究室 Disability Support System							
准教授 田中 尚樹	・障害児者の家族支援と施策に関する研究 ・障害者の地域生活と支援に関する研究		○		○		
産業保健研究室 Occupational Health							
教授 千葉 敦子	・職域における健康増進に関する研究 ・産業看護に関する研究		○	○		○	○
疫学・精神栄養研究室 Epidemiology and Nutritional Psychiatry							
教授 松村 健太	・こころの健康および栄養に関する疫学的研究 ・健康の生物学的・心理的・社会的決定要因の解明 ・疾病の予防、改善、診断精度向上を目指した介入・モニタリング手法の開発		○			○	○
国際地域栄養研究室 Global and Community Nutrition							
教授 三好 美紀	・地域における栄養面の課題分析と評価に関する研究 ・国際協力における栄養分野の政策・活動に関する研究		○			○	○
看護システム研究室 Nursing Administration							
教授 村上眞須美	・看護職の働き方とワークライフバランスに関する研究 ・保健・医療・福祉における災害の備えに関する研究 ・看護におけるシステム開発および運営に関する研究		○	○		○	○
健康行動科学研究室 Health and Behavioral Science							
教授 安永 明智	・身体活動および座位行動と心身の健康の関連に関する研究 ・健康および健康行動に関連する個人・環境要因に関する研究 ・健康行動の変容を促す効果的な支援方略の開発に向けた研究		○			○	○
健康推進・栄養政策研究室 Health Promotion and Nutrition Policy							
教授 吉池 信男	・栄養政策と評価に関する研究 ・地域における健康推進活動に関する研究		○			○	○

対人ケアマネジメント領域 Interpersonal Care Management Domain							
感染予防看護学研究室 Infection Prevention Nursing							
准教授 新改 法子	・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染対策や医療従事者の支援に関する研究 ・医療関連感染予防に関する研究 ・感染症患者や易感染患者の看護ケアに関する研究	○	○			○	
老年看護学研究室 Gerontological Nursing							
教授 出貝 裕子	・高齢者と家族の支援に関する研究 ・認知症高齢者と家族への支援に関する研究	○	○			○	○
がん看護学研究室 Cancer Nursing							
教授 鳴井ひろみ	・がん治療を受ける患者・家族の療養生活の支援に関する研究 ・がん患者・家族に対する緩和ケア、外来看護に関する研究	○	○			○	○
ヒューマンダイナミクス研究室 Human Dynamics							
准教授 漆畑 俊哉	・素材に注目したインソールの開発および効果検証 ・足部形態の違いが靴の性能および運動パフォーマンスに与える影響 ・運動パフォーマンスを改善させる介入手段に関する研究	○					○
助産学研究室 Midwifery							
准教授 蝦名 智子	・周産期ケアに関する研究 ・女性の健康に関する研究	○	○				



各研究室の詳細はこちらから
<https://www.auhw.ac.jp/daigakuin/health/laboratory.html>

各研究室の詳細はこちらから
https://www.auhw.ac.jp/daigakuin/health/laboratory.html

		博士前期					博士後期
		健康科学	看護学	社会福祉学	公衆衛生学	CNS	健康科学
食育実践研究室 Food and Nutrition Education Practice							
准教授 大野 智子	・健康的な食生活につながる家庭料理の伝承に関する研究 ・スポーツ選手を対象とした栄養サポートのあり方に関する研究	○					
在宅看護学研究室 Home Health Care Nursing							
准教授 小野 恵子	・訪問看護ステーションに関する研究	○	○				
看護基礎科学研究室 Theory Development in Nursing Practice							
教授 角濱 春美	・看護の基盤理論に関する研究 ・アジア出身の看護職のキャリア開発に関する研究	○	○				○
対人コミュニケーション研究室 Interpersonal Communication							
教授 川内 規会	・医療通訳に関する研究	○					
基礎看護技術研究室 Innovation in Nursing Skills							
准教授 小池祥太郎	・看護技術の効果を検証する研究 ・看護や教育などの介入効果を検証する研究	○	○				○
母性看護学研究室 Women's Health Nursing							
教授 佐藤 愛	・産婦ケアに関する研究 ・女性の健康に関する研究	○	○				○
臨床心理神経科学研究室 Clinical Neuropsychology							
准教授 塩田 翔一	・Body mind approach の作用に関わる心理・生理・神経学的な研究 ・ファンタジーの作用に関わる心理・生理・神経学的な研究 ・主観的な時間に関わる心理・生理・神経学的な研究 ・一つの型にとらわれない学際的な視点から計画・遂行する研究	○		○			○
学校栄養研究室 Nutrition for School-aged Children							
教授 鹿内 彩子	・学齢期の子どもの栄養と健康問題に関する研究 ・開発途上国における学校給食に関連する研究	○					○
スポーツリハビリテーション学研究室 Sports Rehabilitation							
教授 篠原 博	・モーションキャプチャを使用した三次元動作解析（アーチェリー、ランニング、パラスキーなど） ・青森県の各種競技におけるフィジカルチェックに関連した研究	○					○
精神看護学研究室 Psychiatric Nursing							
教授 清水 健史	・精神科看護師の職業上の発達に関する研究 ・精神科看護に関する研究	○	○				
小児看護学研究室 Child Health Nursing							
教授 谷川 涼子	・小児看護に関する研究 ・小児と家族の支援に関する研究	○	○				○
神経・高齢者リハビリテーション科学研究室 Neuro and Geriatric Rehabilitation Science							
教授 中江 秀幸	・パーキンソン病患者のリハビリテーションに関する研究 ・脳卒中片麻痺患者のリハビリテーションに関する研究 ・リハビリテーション評価指標に関する研究 ・高齢者および在宅療養者の活動性に関する研究	○					
看護実践研究室 Nursing Practice							
教授 福井 幸子	・感染症看護における倫理的行動 ・臨床看護技術の効果検証に関する研究	○	○				○
アジアの栄養食文化研究室 Asian Nutrition and Food Culture							
特別研究 教授 山本 茂	・アジアの保健衛生分野（特に栄養士）の人材育成 ・アジアの食事摂取基準、食品成分表、 栄養・健康調査などの整備 ・アジアの栄養・食文化と健康の関係に関する研究	○					○

基礎研究・実用技術領域 Basic Research and Practical Technology Domain

神経疾患研究室 Neurological Disorders

教授 新井 陽	・パーキンソン病の病態生理と神経伝達物質に関する研究 ・認知症早期発見に関する研究 ・神経疾患の理解と治療支援に関する研究	○					○
---------	--	---	--	--	--	--	---

食品開発・安全学研究室 Food Development and Safety

准教授 井澤 弘美	・農水産物の保健機能食品化に関する研究 ・未利用農水産資源を利用した食品の開発 ・経口摂取された環境汚染物質の毒性評価	○					○
-----------	--	---	--	--	--	--	---

アンチエイジング・スキンケア研究室 Anti-aging Science / Skin Care

教授 今 淳	・アンチエイジングやスキンケア物質の分子生物学的研究による新規発掘 ・アンチエイジングやスキンケアに重要な物質・商品の文献研究 (システマティックレビュー、メタアナリシス)ー効能の存否の科学的検証	○					○
--------	---	---	--	--	--	--	---

栄養生命科学研究室 Life Science and Nutrition

教授 佐藤 伸	・胎生期授乳期の栄養環境に起因する肥満や糖尿病の発症に関する研究 ・肥満や糖尿病における食品由来抗酸化物質の生理機能に関する研究	○					○
---------	---	---	--	--	--	--	---

臨床栄養学研究室 Clinical Nutrition

教授 清水 亮	・臨床栄養学教育に関する研究 ・生活習慣病の療養支援に関する研究 ・病院・施設・在宅におけるシームレスな栄養食事療法に関する研究	○					
---------	---	---	--	--	--	--	--

食品機能化学研究室 Food Functional Chemistry

教授 七島 直樹	・カンサやリンゴのフィトケミカルが秘める新規保健機能の探索 ・植物性女性ホルモンに関する研究	○					○
----------	--	---	--	--	--	--	---

基礎栄養学研究室 Basic Nutrition

准教授 乗鞍 敏夫	・慢性腎臓病とサルコペニアの合併症モデルにおけるアミノ酸代謝物の生理作用 ・化学分析によるアミノ酸と脂肪酸の栄養価計算の妥当性の評価	○					○
-----------	---	---	--	--	--	--	---

リハビリテーション科学研究室 Rehabilitation Science

准教授 福士 勇人	・呼吸生理学に関する研究 ・呼吸困難感に関する研究 ・ヒトを対象とした臨床研究	○					○
-----------	---	---	--	--	--	--	---

生体機能学研究室 Biological Functions

教授 李 相潤	・体組成の変動因子 (性・加齢・運動など) に関する研究 ・骨に影響する体組成及び身体活動強度に関する研究	○					○
---------	---	---	--	--	--	--	---

認知運動神経科学研究室 Cognitive Motor Neuroscience

教授 渡邊 龍憲	・巧緻運動の制御機構に関する研究 ・認知負荷による感覚運動制御系の変容に関する研究 ・非侵襲的脳刺激法に関する研究	○					○
----------	--	---	--	--	--	--	---

※令和9年度入試で募集を行わない研究室を含め、全研究室を掲載しています。募集を行う研究室について、詳細は募集要項で確認してください。

修学等支援の概要

修学を多角的に支援します	授業を土日、夜間、夏季に集中して実施しています 土日、夜間開講、夏季集中講義により、社会人が働きながら学べる環境に配慮しています。 Web会議システムによる遠隔授業や研究指導を行っています 授業等で必要とするアプリやアカウント等の準備や使用方法については、本学が整えますので、安心して遠隔授業や研究指導を受けることができます。なお、予め、インターネット環境等を整えてください。 長期履修制度（標準修業年限2年を超えて3年での履修が可能）※博士前期課程のみ 職業を有する、介護・育児に従事している等の事情により標準修業年限（2年）を超えて、計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する場合は、教育研究上の必要があると認められれば、修業年限3年での履修が可能となります（CNSコースを除く）。 職員宿舎に入居可能です 大学院生は、割引使用料で職員宿舎を利用することができます。					
奨学金の受給や授業料減免を支援します	優秀な学生のために、日本学生支援機構による奨学金（第一種、第二種）の貸与があります <table border="1"> <thead> <tr> <th>第一種 奨学金</th><th>第二種 奨学金</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〈博士前期課程〉 50,000円、88,000円から選択</td><td rowspan="2">50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円の中から選択</td></tr> <tr> <td>〈博士後期課程〉 80,000円、122,000円から選択</td></tr> </tbody> </table> ※日本学生支援機構奨学金のほか、地方公共団体や民間団体が行う奨学金制度もあります。募集時期や応募方法等は実施団体により異なりますので、各団体に直接お問い合わせください。 「授業料後払い制度」があります（博士前期課程のみ対象） 日本学生支援機構が在学中の授業料を支払い、修了後の収入に応じて返還を行う制度です。また、在学中は、生活費奨学金として、毎月2万円又は4万円の貸与を受けることができます。 「特に優れた業績による返還免除制度」があります 日本学生支援機構の「第一種奨学金」又は「授業料後払い制度」を利用した方で、特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した人を対象に、返還額の全額又は半額を免除する制度です。詳しくは日本学生支援機構のホームページをご確認ください。 本学独自の支援として、授業料減免制度があります 授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、その他、突発的な災害等やむを得ない事情があると認められた場合には、授業料の全額、3分の2の額、3分の1の額又は4分の1の額を免除する制度があります。	第一種 奨学金	第二種 奨学金	〈博士前期課程〉 50,000円、88,000円から選択	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円の中から選択	〈博士後期課程〉 80,000円、122,000円から選択
第一種 奨学金	第二種 奨学金					
〈博士前期課程〉 50,000円、88,000円から選択	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円の中から選択					
〈博士後期課程〉 80,000円、122,000円から選択						
研究活動のための研究費を支援します	研究費を活用できます 大学院生は、所属する研究室に配分される研究費を活用し、指導教員の指導のもと、研究活動を進めることができます。 若手・大学院生奨励研究助成制度に申請できます 本学の若手研究者に加えて、大学院生に対しても優れた研究計画への研究費の助成を行っています。自らの研究テーマを深め、研究者としての資質を高めるための支援となっています。					
論文投稿を支援します	「論文発表推進特別支援助成金」に申請できます					
海外での調査活動等を支援します	「学生海外学習活動助成金」を活用できます					

令和9年度 大学院入学者選抜について

【選抜日程】

	学内推薦 (博士前期課程のみ)	第1期 (博士前期課程・博士後期課程共通)	第2期 (博士前期課程・博士後期課程共通)
出願資格認定 審査申請期間	—	令和8年 8/17(月)～8/20(木)	令和8年 12/1(火)～12/4(金)
出 願 期 間	令和8年 7/28(火)～7/31(金)	令和8年 9/24(木)～9/29(火)	令和9年 1/14(木)～1/19(火)
試 験 日	令和8年 8/21(金)	令和8年 10/17(土)	令和9年 2/6(土)
合 格 発 表	令和8年 9/4(金)	令和8年 10/23(金)	令和9年 2/15(月)

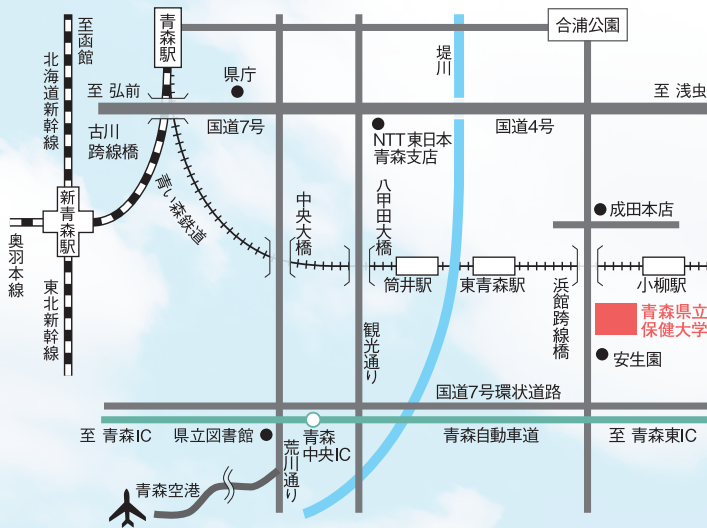
【募集概要】

【募集概要】	博士前期課程				博士後期課程
募 集 人 員	23名 ※学内推薦選抜(6名程度)及び				8名
選 抜 区 分	学内 推薦選抜	一般選抜	外国人 留学生選抜	CNSコース 選抜	
選 考 方 法	選抜試験・出願書類等により総合判定 ※選抜試験は、次のとおり実施します。				選抜試験・出願書類等により 総合判定 英語・口述試験のオンライン入試を実施します。
	選抜区分	試験内容	摘 要		
	学内推薦選抜	面接	個人面接		
	一般選抜	英語			
		専門科目	共通問題及び選択問題		
		面接	個人面接		
	外国人留学生選抜	総合問題			
		面接	個人面接		
	CNSコース選抜	専門科目			
		面接	個人面接		
					【予告】 博士後期課程における外国語(英語)試験の変更について 令和10年度入試(令和9年度実施)から、博士後期課程の外国語(英語)試験について、筆記試験に代えて外部英語資格・検定試験を活用する方式へ変更する予定です。 対象試験、換算方法、有効期限、提出方法等の詳細については、令和10年度学生募集要項において公表予定です。また、最新情報は本学ウェブサイトに随時掲載しますので、出願を検討されている方は定期的にご確認ください。 ※内容は現時点での予定であり、変更となる場合があります。

出願から合格発表まで

1	研究指導教員と 事前相談を行う	大学院案内やホームページからあなたが希望する研究内容に関連する指導内容を検討し、その指導教員と事前相談を行ってください。 ※事前相談について 本学大学院では、研究分野のミスマッチを避けるために、出願前に必ず、指導教員と相談し、研究テーマ及び修業年限等について検討することとしています。
2	学生募集要項を 確認する	学生募集要項により、出願資格を確認してください。 なお、要項は右記QRコード または 下記URLよりダウンロード可能です。 https://www.auhw.ac.jp/daigakuin/exam/seikyuu.html 
3	出願する	募集要項を熟読のうえ、不足等がないように 出願書類を準備し、期限までに提出してください。
4	受験する	博士前期課程の選抜試験は本学で実施し、 博士後期課程の選抜試験はオンラインで実施します。
5	合格発表	合格発表については、ホームページでの掲載及び合格者への 合格通知書の発送により実施します。

交通アクセス



青森市まで

- JR／東京駅～新青森駅まで約3時間（東北新幹線「はやぶさ」）
新函館北斗駅～新青森駅まで約1時間（北海道新幹線「はやぶさ」「はやて」）
- 飛行機／札幌便（約55分）、東京便（約75分）、名古屋便（約80分）、大阪便（約90分）

大学まで

- 青森駅から約7km、新青森駅から約11km
- 鉄道
新青森駅から青森駅を経由し（奥羽本線）、青い森鉄道八戸方面行きで東青森駅で下車。大学まで徒歩約10分（約1km）。
- バス（青森市営バス）
青森駅前バス停から明の星通り線で県立保健大学前バス停で下車（約20分）。
- 車／タクシー
青森駅から約15分、新青森駅から約20分
青森自動車道（青森中央IC）から約15分
青森空港から約30分

大学院進学相談会

- 日時／6月13日(土) 13:00～16:00(オンライン・対面)
8月 9日(日) 13:00～16:00(オンライン・対面)
10月24日(土) 13:00～16:00(オンライン・対面)
12月19日(土) 13:00～16:00(オンライン・対面)
- 場所／青森県立保健大学

●オンライン相談会は、事前の申し込みが必要です。
希望される方は、下記にお問い合わせください。

●対面による相談会は、当日の参加も可能ですが、
できるだけ事前の申し込みをお願いします。

※情報が変更となる場合は、随時ホームページに掲載します。

申し込み方法等の詳細につきましては、本学ホームページをご確認ください。

<https://www.auhw.ac.jp/daigakuin/exam/soudan.html>

本学ホームページは
こちらから。



募集要項

募集要項および各出願書類様式は、
大学のホームページから直接ダウンロードすることができます。

<https://www.auhw.ac.jp/daigakuin/exam/seikyuu.html>

詳細については
右記QRコードを読み取り、
ご参照ください。



青森県立保健大学

◎お問い合わせ 〒030-8505 青森市大字浜館字間瀬58-1 青森県立保健大学事務局 教務学生課
Tel 017-765-2061 Fax 017-765-2188 E-mail nyushi@ms.auhw.ac.jp